

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 27 日現在

機関番号：23102

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284072

研究課題名(和文) 朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究

研究課題名(英文) Synthetic Research on Modern Korean Literary Works Written in Japanese

研究代表者

波田野 節子 (Hatano, Setsuko)

新潟県立大学・公私立大学の部局等・名誉教授

研究者番号：50259214

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究には11名の分担者と42名の協力者が参加した。2013年に武蔵大学、2014年に新潟県立大学、最終年度の2015年には福岡大学を会場に、「植民地期朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間」と題する国際公開シンポジウムを3年間にわたって連続開催し、毎回約40名の研究分担者の研究者が集まって活発な討論を行なった。2015年3月には米国デューク大学が中国のデューク・クンサン大学と国際ワークショップを共催して討論を行ない、同年10月には、韓国の林和学会と協力して、東京で「林和と植民地朝鮮のプロレタリア文学」を共催した。このほかに在米研究者による講演会を3回、韓国研究者による講演会を1回開催した。

研究成果の概要(英文)：11 Co-investigators and 42 Research Collaborators from Japan, Korea and the United States participated in this project. We held many events over the course of three years. An international symposium entitled "Colonial Korean Literature and Culture in Japanese Discursive Space" was held for three consecutive years at Musashi University in 2013, at the University of Niigata Prefecture in 2014 and at Fukuoka University in 2015. Each time, about 40 researchers participated and debated actively. In March 2015, an international workshop entitled "Empire and Language: Translingual Inter-Asia" was co-hosted with Duke University at Duke-Kunshan University in China. In October, an international symposium called "Im-hwa and Proletarian Literature in Korea During the Colonial Period" was held in Tokyo in cooperation with the Im-hwa Association of Korea. In addition, three lectures by American researchers and a lecture by a Korean researcher were hosted.

研究分野：朝鮮近代文学

キーワード：朝鮮近代文学、日本語創作、日本語文学、帝国と植民地、植民地の言語、植民地の文学、「国際研究者協力」韓国、「国際情報交換」韓国

1. 研究開始当初の背景

本研究の出発点は、代表者が30年来研究している李光洙という作家である。韓国最初の近代小説とされる『無情』(1917)の作者であり、つねに民族のために生きた作家であった彼が植民統治末期には対日協力を行ない、「親日小説」とされる日本語小説を書いた。この時代には、彼のほかに多くの作家が日本語創作を行なっている。どうしてこんな事態が起きたのかを正しく理解するためには「日本語創作」の全体像を把握し、通時的、共時的、そして普遍的な視座が必要とされる。また日韓の研究者が同じ資料をいっしょに検討することが望ましいという考えから、ネットワークを立ち上げて共同研究を行なうことにした。

文学の領域だけでなく、隣接して相互に干渉しあっていた映画、演劇、学術、マスメディアなどの領域も視野に入れるほか、なによりも日本と朝鮮という地域特殊性から抜けだして、日本語創作を「植民地における宗主国の言語による創作」と見る普遍的な視座を確保するために、朝鮮文学以外の研究者もふくむ共同研究が必要とされた。

日本の植民統治から解放されたあとの韓国では、日本語創作が行なわれた1940年代を「暗黒期」と呼び、日本語作品も韓国文学史から排除した。しかし21世紀に入ると状況は大きく変わり、若い研究者を中心に日本語創作の研究が活発に行なわれるようになった。一方で日本では、研究者の数は少ないが着実な研究が続けられてきており、双方の研究者の協力は大きな実りをもたらすであろうと思われた。

2. 研究の目的

こうした問題意識のもと、本研究では、これまでに日韓で蓄積された研究成果を、より大きな枠組みで照射して新たな知見を得ることを目的にした。研究者たちが、一場に会って討論を交わすことを主目的とし、このために必要な研究者ネットワークを構築することも副次的な目的とした。

3. 研究の方法

分担者と研究協力者を、個別作家研究、近代朝鮮語形成期に朝鮮半島に入った日本語がその影響力を拡大していった実態、日本に長期滞在した留学生たちが置かれていた言語環境、文学・演劇・映画に見られた言語状況、学術思想制度とメディア、日本文学研究者からの視点、在米研究者からの視点、という部門を設け、各部門の共同研究者が研究結果を発表し討論して成果を共有し、それによって知的な刺激を与えあって新たな知見に到達することをめざした。

具体的には、年に1度国際シンポジウムを開催して発表と討論を行ない、そのほかに講演会を開いて、その都度討論を行なった。

4. 研究成果

初年度である2013年に武蔵大学、2014年に新潟県立大学、最終年度の2015年に福岡大学を会場として「植民地期朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間」(1)(2)(3)と題する国際シンポジウムを開催し、研究分担者と研究協力者、約40名が集まって活発な討論を行なった。シンポジウムは公開にした。2015年3月には研究協力者のクォン・ナヨンのホーム校である米国デューク大学が中国のデューク・クンサン大学で開催したワークショップに分担者と研究協力者たちも合流して討論を行ない、同年10月には、分担者の渡辺直紀と研究協力者の金在湧が中心となっている韓国の林和学会と協力して、東京での林和の活動に焦点をあてた「林和と植民地朝鮮のプロレタリア文学」を共催した。このほかには在米の研究者による講演会を3回、韓国研究者による講演会を1回開催した。

日本語創作というと、これまでは韓国語の使用が禁止された1940年代の作品を考える傾向が強かったが、3年間の共同研究を通じて、その考えは変わっていった。言語芸術である文学を外国語で創作できるようになるまでには長い時間を必要であり、朝鮮半島に日本語が流入した時期からの前史を入れて考察しなければならないことがわかった。また植民地支配が終わったあとも視野に入れる必要がある。韓国の人々に刻みこまれた日本語はその後長いあいだ痕跡をとどめたからである。日本の敗戦によって言語状況が激変したあとで新しい韓国文学を生みだした若い作家たちにとって、身体に刻印された日本語は大きな桎梏となった。今回の共同研究を行なうことで、我々は、宗主国の言語政策が植民地にあたえた傷の深さとその影響の長さを再認識した。同時に、日本のもう1つの植民地であり、韓国よりもさらに多くの日本語創作が行なわれた台湾との比較研究が必要であるとの見解を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計24件)

波田野節子、李光洙の日本語小説「加川校長」と「蠅」について、朝鮮学報、査読有、238輯、2016、1-33

山田佳子、崔貞熙の植民地末期における時局関連作品—三つの類型と「野菊抄」、国際地域研究論集、査読無、7号、2016、13-23

熊木勉、『同志社大学予科学生会誌』「自由詩人」のころの鄭芝溶、福岡大学研究部論集、査読無、15-2、2016、1-20
熊木勉、鄭郷の日本語詩とその傷痕(韓国語)、福岡大学人文論叢、査読無、47-4、2016、1451-1479

坪井秀人、柵の中で—日系人強制収容所の中の書記空間、JunCture、査読有、5号、2016、76-86

波田野節子、『無情』の表記と文体につ

- いて、朝鮮学報、査読有、236 輯、2015、1-28
- 山田佳子、崔貞熙「天脈」の創作過程を検証する、国際地域研究論集、査読無、6 号、2015、73-80
- 五味淵典嗣、テキストという名の戦場—金史良『郷愁』の言語戦略—、日本文学、査読有、64-11、2015、44-53
- 五味淵典嗣、友情の効用—小林秀雄と火野葦平—、大妻国文、査読無、46 号、2015、63-81
- 渡辺直紀、李香蘭における映画と政治、高麗大学グローバル日本研究院・日本研究、査読有、24 号、2015、137-155
- 沈元燮、日・韓のフォークソング、1970 年前後、日本歌謡研究、査読無、54 号、2015、1-14
- 三ツ井崇、植民地期朝鮮における親日派の民族運動、—朴勝彬の自治・文化運動を中心に—、愛知大学国際問題研究所紀要、査読無、146 号、2015、63-84
- 相川拓也、鄭人澤「清凉里界限」論：書く主体としての植民地男性知識人、社会文学、査読無、41 号、2015、60-73
- 波田野節子、李光洙の日本語小説と同友会事件、朝鮮学報、査読有、232 輯、2014、43-77
- 波田野節子、李光洙と翻訳—アンクル・トムズ・ケビンを中心に—、東京大学韓国朝鮮文化研究、査読無、13 号、2014、1-21
- 波田野節子、日本語版「五道踏破旅行」を書いたのは誰か（韓国語）、尚虚学報（韓国）、142 号、査読有、2014、203-229
- 五味淵典嗣、曖昧な戦場—日中戦争期戦記テキストと他者の表象、昭和文学研究、査読有、69 号、2014、36-47
- 沈元燮、日本製の朝鮮紀行文と李光洙の「五道踏破旅行」（韓国語）、現代文学の研究（韓国）、査読無、52 号、2014、135-167
- 沈元燮、熊本時代の阿部充家（韓国語）、韓日民族問題研究（韓国）、査読無、26 号、2014、125-166
- 郭炯徳、金史良作「郷愁」における<東洋>と「世界」—『転向』の前提条件をめぐって（韓国語）、現代文学の研究（韓国）、査読有、33 号、2014、213-248
- 21 渡辺直紀、The Colonial and Transnational Production of Suiside Squan at the Watchtower and Love and the Vow, Cross-Currents、査読有、vol.2,number 1、2013、89-115
- 22 三ツ井崇、日中戦争期以降における朝鮮総督府の言語政策と朝鮮社会—日本語「普及」問題を中心に—、翰林日本学（韓国）、査読有、23 号、2013、37-97
- 23 李慧眞、文人動員の兵站学：アジア・太平洋戦争下の「大東亜文学者大会」を中心に（韓国語）、亜太研究（韓国）、査読有、20-3、2013、261-300
- 24 具仁謨、近代期朝鮮における新概念としての「詩」と言語横断的实践、朝鮮学報、査読有、227 輯、2013、47-73
- 〔学会発表〕(計 30 件)
- 熊木勉、植民地期の朝鮮人と日本語（韓国語）日本語教育科講演会、2016.3.30、仁川大学（仁川市、韓国）
- 渡辺直紀、The Colonial Reception of Ri Koran's Films in Korea and Taiwan、Empire in Retrospect: New Directions in Korean and Japanese Cultural Studies、2016.3.31、University of Washington（シアトル市、米国）
- 沈元燮、青年尹東柱の内面の闘いの記録、詩人尹東柱を記念する立教の会：尹東柱とともに、2016.2.21、立教大学（東京都）
- 波田野節子、『無情』の表記と文体について（韓国語）、韓国国語国文学会、2015.5.30、高麗大学（ソウル市、韓国）
- 波田野節子、李光洙の日本語小説「加川校長」と「蠅」について、朝鮮学会、2015.10.3、天理大学（奈良県、天理市）
- 山田佳子、崔貞熙の日本語創作について、植民地朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間(3)、2015.7.4、福岡大学（福岡市）
- 五味淵典嗣、日中戦争戦記テキストの朝鮮人表象、植民地朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間(3)、2015.7.4、福岡大学（福岡市）
- 山田佳子、植民地末期における崔貞熙の時局協力作品と日本語—少年とその母をめぐって—、朝鮮学会、2015.10.3、天理大学（奈良県、天理市）
- 三ツ井崇、日本の朝鮮半島進出と朝鮮知識人（韓国語）、日韓外交正常化 50 周年記念学術大会「過去を越えて日韓関係の未来を切り開く」、2015.6.18、ハイヤットリージェンシー済州（済州市、韓国）
- 五味淵典嗣、戦争文学／戦記テクスとの戦場表象、国際ワークショップ「日本近現代文学・文化研究の最前線」、2015.3.22、淡江大学（新北市、台湾）
- 渡辺直紀、Gender Politics in Li Xianglan's Film、Transnational Cultural Interactions between Korea and Japan: From the Pre-Modern to the Colonial Period、2015.5.17、The Hebrew University of Jerusalem（エルサレム市、イスラエル）
- 渡辺直紀、Imperialism and Ethnic Nationalism in Colonial Korea: Yi Gwangsu's "Brothers in Arms"(1941)、UCLA Trans-Pacific Symposium、2015.6.5、UCLA（ロサンゼルス市、米国）
- 渡辺直紀、Imperialism and Ethnic Nationalism in Colonial Korea: Yi

- Gwangsu's "Brothers in Arms"(1941), Cultural Mobility: Transformation of East Asian Humanity Studies and Diversity of New Intellectual Trend, 2015.7.6, National Taiwan University (台北市, 台湾)
- 渡辺直紀、イポリット・テヌと植民地文学 朝鮮・台湾での受容比較(韓国語) 第8回林和文学シンポジウム、2015.10.24、武蔵大学(東京都)
- 渡辺直紀、The Colonial Reception of Ri Koran's Films in Korea and Taiwan, The Many Worlds of Yamaguchi Yoshiko: An International Workshop at Columbia University、2015.12.16、Columbia University(ニューヨーク市、米国)
- 永島広紀、旧制高等学校と朝鮮人生徒の文芸活動、植民地朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間(2)、2014.7.6、新潟県立大学(新潟市)
- 波田野節子、李光洙の日本語創作と同友会事件(韓国語)、植民主義と文学学会、2014.5.30、済州大学(済州市、韓国)
- 波田野節子、日本語版「五道踏破旅行」は誰が書いたか、植民地朝鮮の文学・文化と日本語の言説空間(2)、2014.7.6、新潟県立大学(新潟市)
- 波田野節子、李光洙と翻訳(韓国語)、梨花女子大学・Yale 大学共同コンフェランス、2014.7.11、梨花女子大学(ソウル市、韓国)
- 波田野節子、李光洙の<大東亜>に見る大東亜共栄圏、西江大学人文科学研究所招待講演、2014.9.29、西江大学(ソウル市、韓国)
- 21 波田野節子、李光洙の<大東亜>に見る大東亜共栄圏、高麗大学 BK 招待講演、2014.9.30、高麗大学(ソウル市、韓国)
- 22 五味典嗣、日本における<戦争の記憶>の現在形、Round Table「Periodicals and Serialization in Asia」、2014.10.3、ワシントン大学(シアトル市、米国)
- 23 三ツ井崇、「ハンゲルの日」記念の歴史的脈絡とハンゲル運動史に対する記憶の形成(韓国語)、慶北大学 BK21 国際学会、2014.6.14、慶北大学(大邱市、韓国)
- 24 三ツ井崇、植民地支配と自己アイデンティティの近代化(韓国語)、延世大学 BK21 プラス事業団ワークショップ、2014.8.11、延世大学(ソウル市、韓国)
- 25 三ツ井崇、植民地期、ある親日知識人のハンゲル運動と政治運動 朴勝彬とは誰なのか(韓国語)、成均館大学 BK21 招聘講演、2014.8.12、成均館大学(ソウル市、韓国)
- 26 三ツ井崇、「言語問題」からみた朝鮮近代史(韓国語)、東国大学 BK21 招待講演、2014.12.18、東国大学(ソウル市、韓国)
- 27 渡辺直紀、日本における林和研究(韓国語)、第7回林和文学シンポジウム、2014.10.17、昌原大学(昌原市、韓国)
- 28 相川拓也、李箱の言語横断、早稲田大学韓国学研究所若手研究会、2014.11.21、早稲田大学(東京都)
- 29 波田野節子、李光洙の大陸放浪と中国第2革命、中日韓言語文化比較研究国際シンポジウム、2013.8.21、延辺大学(延吉市、中国)
- 30 波田野節子、方珉昊「李光洙の文学世界」に対して、明治学院創立150周年記念シンポジウム「李光洙とは誰か」、2013.11.9、明治学院大学(東京都)
- 〔図書〕(計8件)
- 坪井秀人、Berlin: Gebr. Mann Verlag1, Wort-Bild-Assimilation: Japan und die Moderne-Japan and Modernity、2016、224(130-159)
- 渡辺直紀、放送大学振興協会、世界文学への招待、2016、285(189-218)
- 波田野節子、中央公論新社、李光洙 韓国近代文学の祖と「親日」の烙印、2015、234
- 永島広紀、放送大学振興協会、日本の近現代 交差する人々と地域、2015、244(163-176)
- 三ツ井崇、放送大学教育振興会、韓国朝鮮の歴史、2015、282(149-250)
- 沈元燮、韓国放送大学校出版文化院、韓国近代作家論、394(77-96,121-164)
- 三ツ井崇、明治書院、知のユーラシア5 交響する東方の知 漢文文化圏の輪郭、2014、432(265-293)
- 相川拓也、七月堂、言語態研究の現在、2014、347(275-293)
- 〔その他〕
- ホームページ
「朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究」—日本学術振興会科学研究費補助研究のページ
<http://hatano.world.coocan.jp/kaken2/kaken25-27index.htm>
6. 研究組織
- (1)研究代表者
波田野 節子 (HATANO SETSUKO)
新潟県立大学・国際地域学部・名誉教授
研究者番号：50259214
- (2)研究分担者
山田 佳子 (YAMADA YOSHIKO)
新潟県立大学・国際地域学部・教授
研究者番号：10425366
永島 広紀 (NAGASHIMA HIROKI)
佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号：50315181
三ツ井 崇 (MITSUI TAKASHI)
東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：60425080
熊木 勉 (KUMAKI TSUTOMU)
福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：70330892
沈 元燮 (SHIM WONSOB)
獨協大学・国際言語文化部・教授
研究者番号：80386698
坪井 秀人 (TSUBOI HIDETO)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：90197757
五味淵 典嗣
(GOMIBUCHI NORITSUGU)
大妻女子大学・文学部・准教授
研究者番号：10433707
渡辺 直紀 (WATANABE NAOKI)
武蔵大学・人文学部・教授
研究者番号：80409367
金 牡蘭 (KIM MORAN)
早稲田大学・付置研究所・准教授
研究者番号：90732941
(3)連携研究者
白川 豊 (SHIRAKAWA YUTAKA)
九州産業大学・国際文化学部・教授
研究者番号：00179045
(4)研究協力者
金 榮敏 (KIM YONG-MIN)
延世大学・教授
金 哲 (KIM CHOL)
延世大学・教授
李 京墳 (YI GYONG-HUN)
延世大学教授
金 在湧 (KIM JE-YONG)
圓光大学・教授
朴 光賢 (BAK KWANG-HYON)
東国大学・助教授
鄭 鍾賢 (CHONG JONG-HYON)
仁荷大学・助教授
具 仁謨 (KU IN-MO)
延世大学・助教授
黃 鎬德 (HYANG HO-DOK)
成均館大・助教授
李 英載 (YI YONG-JE)
韓国芸術総合学校・講師
Kyeong-Hee Choi
Chicago 大学・助教授
Nayoung Aimee Kwon
Duke 大学・助教授
John Treat
Yale 大学・名誉教授
Eliie Choi
Cornell 大学・助教授
李 慧眞 (YI HE-JIN)
世明大学・教授
車 惠英 (CHA HE-YONG)
漢陽大学・教授
徐 栄彩 (SO YONG-CHE)
ソウル大学・教授
權 明娥 (KWON MYONG-KA)

東亜大学・教授
李 相雨 (YI SANG-U)
高麗大学・教授
崔 珠瀚 (CHE JU-HAN)
西江大学・研究教授
鄭 善太 (CHONG SON-TE)
国民大学・教授
黃 鍾淵 (HWANG JONG-YON)
東国大学・教授
大村 益夫 (OOMURA MASUO)
早稲田大学・名誉教授
芹川 哲世 (SERIKAWA TETSUYO)
二松学舎大学・名誉教授
郭 炯德 (KAK HYONG-DOK)
韓国科学技術学院非常勤講師
李 賢植 (YI HYONG-SHIK)
韓国近代文学館館長
咸 苔英 (HAM TEYONG)
韓国近代文学館キュレーター
申 知瑛 (SHIN JI-YONG)
津田塾大学非常勤講師
伊藤 知子 (ITO TOMOKO)
早稲田大学非常勤講師
高橋 梓 (TAKAHASHI AZUSA)
東京外国語大学大学院生
相川 拓也 (AIKAWA TAKUYA)
東京大学大学院生
李 正熙 (YI JONG-HI)
日本大学大学院生
裴 相美 (BAE SANG-MI)
高麗大学大学院生
Cindi Textor
Washington 大学大学院生
曹恩美 (CHO UN-MI)
東京外国語大学大学院生
李 侑珍 (YI YU-JIN)
東京外国語大学大学院生
金 景彩 (KIM GYONG-CHE)
東京大学大学院生
武井 一 (TAKEI HAJIME)
日比谷高校講師
尹 仁老 (YUN IN-RO)
東亜大学大学
高 恩美 (KO UN-MI)
東亜大学大学
權 杜妍 (KWON DU-YON)
延世大学
岸井 紀子 (KISHII NORIKO)
翻訳家
牧瀬 明子 (MAKISE AKIKO)
翻訳家